発行日：2024.1.25
発行者：堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
編　集：協議会＋SANTO DESIGN STUDIO
連絡先：〒590-0930 堺市堺区柳之町西1丁1-28
TEL.072-228-0953（志賀）
ＵＲＬ：http://sakaimachinami.jp/

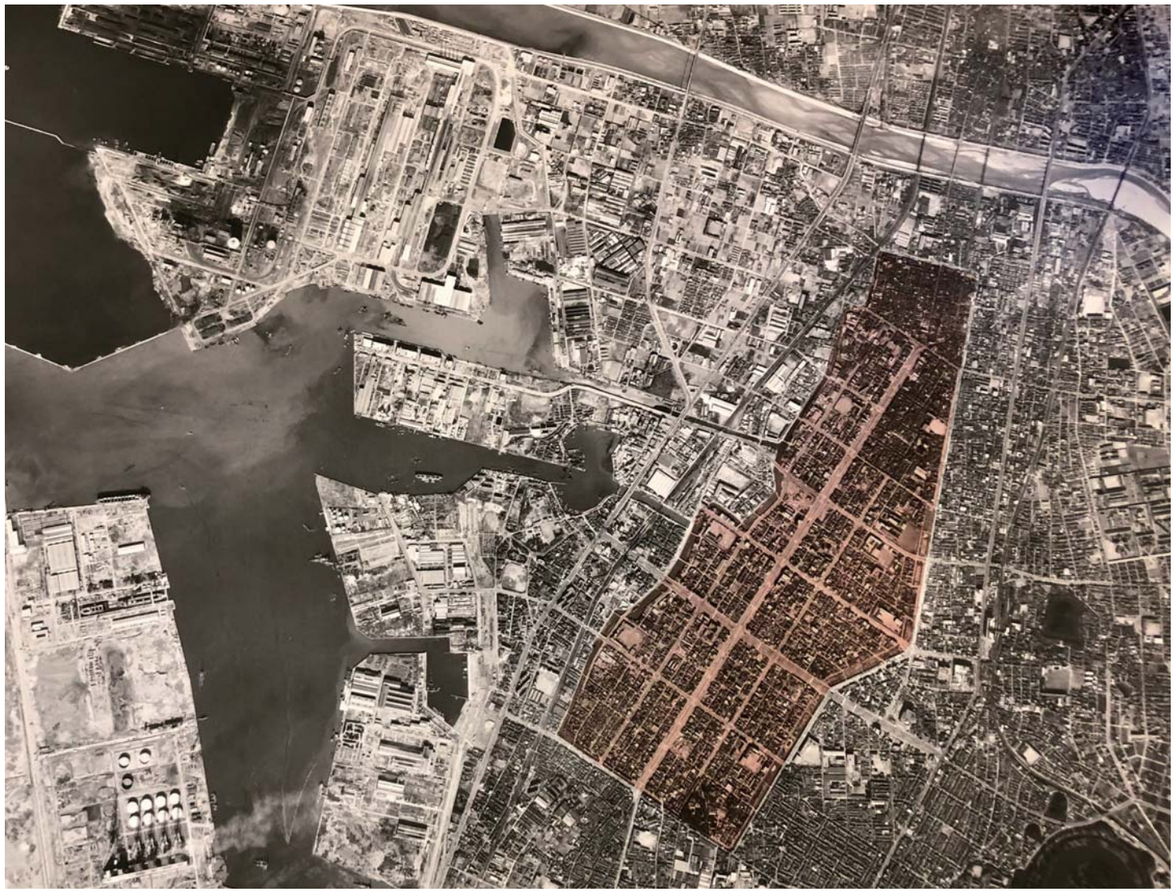
堺 環濠都市 NEWS ［ニュース］

北部

歴史的まちなみを未来に活かすため

町なみ再生シンポジウムⅢ（最終回）「歴史的景観の未来」開催しました！

vol.39



「堺市域空中写真」［1966年（昭和41年）］【部分】国土地理院撮影

今号の表紙

今号の表紙の元の写真は、国土地理院によって1966年（昭和41年）に撮影された、「堺市域空中写真」です。戦後20年以上経過し、既にかなり臨海の埋め立て工事が進んでいて、「環濠都市」が飲み込まれていくような臨海開発の状況が見て取れます。また、環濠都市東端の土居川では、高速道路計画が着々と進んでいます。泉北丘陵を開発し、その土砂で堺の海を埋め立てるという、大阪府によって実施された臨海工業地帯と泉北ニュータウンの造成計画は、戦後の堺のまちづくりの方向性を決定づけるものであったと言えますが、未だに当事者による総括はなされていないのではないでしょうか？
今回のシンポジウムⅢにおいて議論され、解き明かされつつある近世・堺環濠都市の都市計画。そして、第2次世界大戦後から現在に到る戦後復興の都市計画。どちらも、戦災からの復興計画でした。その後、これらの復興計画は何をもたらしたのか、今、私たちは、市民も行政も含め、そのことに真摯に向き合い、その歴史的評価を下すべき時に来ていると考えます。そして、その先にこそ、本当の未来のまちの姿があるのではないかと、今も移り変わりゆく堺の景観が、私たちに問いかけているかのようです。（『堺・泉北臨海工業地帯の建設』＜大阪府1970年（昭和45年）＞、『堺市政白書』＜自治体研究社1976年＞参照）

第2部＜公開討論＞
共に切り開く「歴史的景観の未来」

２部では、参加者の皆さんの多岐にわたる熱心な質問に、お二人の先生が真摯に回答していただく中、新たな興味深い問題も提示され、より基調講演の内容が深められました。

また、藪田先生には「堺環濠都市北部地区」が重要文化的景観を目指すにあたっての、すてきなキャッチフレーズも思いついていただきました。曰く「鉄炮鍛冶を中心とする 四百年にわたる ものづくりの町 堺環濠北部」です。新年早々、早速、堺町家案内所の表に掲示しました。

INFORMATION

▶第1回臨時総会（令和5年度）開催のお知らせ

これまでも何度かお知らせしてきましたように、今年度（2023年度）は本協議会の最終年度に当たりますが、当然ながら、今年度分につきましても、例年通り国の補助金等の決算報告をする必要があります。従来は、2016年度以降、毎年、年度の初めの定期総会の折に、予算案とともに前年度の決算報告をしてきました。しかし、今年度は、当協議会10年目の最終年度になるため、次年度はありません。従って、本年度末に決算報告を行う必要があります。そのため、下記の日程で、臨時総会を開催し、決算報告等を行い、同時に下記のような講演会も開催し、堺環濠都市の原点である遺跡発掘調査の最新情報を教えていただきます。堺環濠都市のルーツを探るため、また、私たちの町の未来を考えるためにも、ぜひ、ご参加下さい。

3月10日（日）
場所：錦西公民館集会室（堺市立青少年センター2F）
時間：13:30～
内容：令和5年度決算等について
講演「堺環濠都市遺跡の発掘調査 ～新たに分かった中世・堺の町なみ～」
近藤康司氏［堺市文化財課］

※予定は変更になることがあります。

▶協議会へのお問い合わせはこちら
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
TEL　072-228-0953［志賀］
MAIL info@sakaimachinami.jp

▶「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室（景観グループ）
TEL 072-228-7432
FAX 072-228-8468

前号NEWS発行から
現在までの進捗情報

今年度も、町なみ再生イベント週間（10／28～11／5）を、例年通り七まち町家会の町家公開とタイアップして開催しました！

今年度は、例年のイベント週間を２日間延長して、11月５日までとし、11月５日には、最終回となる、第10回目の町なみ再生連続講座を特別開催しました。今回は、「昔・町なみ歩こうイベント」は実施しませんでした。

▶展示「環濠都市」の記憶を伝えるために

2023.10.28（土）～11.4（土） 午後１時30分～午後４時
会場：堺町家案内所（北旅籠町大道西・内田家住宅1F）

協議会の最終年度にあたる今年は、12月10日開催予定のシンポジウムを見据え、2020（令和２）年度に続いて、再び「歴史的風致（ふうち）」や「文化的景観」に注目し、歴史都市「堺環濠都市」を未来に活かすためには、どうしたらいいのか、その方策を考えつつ、これまでの活動の一端を振り返る展示も行い、また、夏の大行灯の展示もしました。

特別開催：町なみ再生連続講座 最終回（総第10回）

2023.11.5（日） 午後１時30分～　場所：錦西公民館（堺市立青少年センター２F）

「大きく変わりつつある『文化財』の考え方 ―保存から活用へ」

講師：中川 理 氏（京都工芸繊維大学名誉教授・神戸女子大学客員教授）

京都市歴史まちづくり推進会議の座長もされておられる中川先生から、「文化財」とは何か、という本質的なことから、京都市の「歴史的風致維持向上計画」の取組にいたるまで、わかりやすく解説していただきました。

まず、「文化財」とは何かという概念が示された1950（昭和25）年の文化財保護法の制定以前（明治期）から現在までを振り返って、何回かの法改正によってもその概念が変わってきたことを確認し、それに伴って新たに加えられた伝統的建物群保存地区、文化財登録制度、文化的景観について説明されました。そして最近よく耳にする、オーセンティシティ（本物かどうか）とインテグリティ（変化を許容するが、建物の良さは守られている）の意味についても理解できました。また、歴史まちづくり法（2008年制定）による「歴史的風致維持向上計画」および、2019年の文化財保護法・地方教育行政法の改正により自治体主体で文化財保存や活用を行うことが可能になり、京都では、多くの町家等の歴史資産活用が始まったとのことです。

また、先生も関わっておられる京都市の「歴史的風致維持向上計画」では、さまざまな取組が行われていることが紹介されました。特に、驚いたことは、歴史的風致形成建造物 指定提案（所有者からの指定提案を受け付けて指定する）制度により、歴史的風致形成建造物に第1期計画では148軒、第２期でも既に77軒以上が指定されているとのことでした。同じく国の認定を受けた堺市の「歴史的風致維持向上計画」の指定３件（２件は各件の中に複数の建造物がありますが）とのあまりの違いに愕然としました。今回は、私たちが正確に認識していなかった、文化財についての基本的な知識について改めて理解し直すとともに、堺市の取組を考える時に、堺市だけに目を向けるのではなく、他の自治体の取組にも大いに学ぶ必要があることを痛感した講演会でした。

町なみ再生シンポジウムⅢ（最終回）「歴史的景観の未来」開催しました！

2023.12.10（日） 午後１時～　会場：開口神社・瑞祥閣　集会室（羽衣）

テーマ：『歴史的景観の未来 ～「堺環濠都市」の記憶を伝えるために～』

歴史都市「堺環濠都市」を未来に活かしていくために、私たちは何をすべきか。
今、共に行動する時ではないでしょうか？

ということで、1部の基調講演で、関西大学名誉教授・兵庫県立歴史博物館館長の藪田貫氏と京都工芸繊維大学教授の清水重敦氏に講演していただき、2部では、参加者も交えて、質問や意見交換をし、講演内容を深めるとともに、私たちが何をすべきか考えました。

第1部＜基調講演＞

「環濠都市堺と鉄砲鍛冶屋敷 ～井上関右衛門家調査で考えたこと～」

講師：藪田 貫氏（関西大学名誉教授・兵庫県立歴史博物館館長）

「文化的景観による堺環濠都市北部地区のまちづくりの可能性について」

講師：清水 重敦氏（京都工芸繊維大学教授）

今回は、現在、堺環濠都市北部地区で調査研究を続けておられるお二人の先生に、基調講演をお願いしました。

藪田先生は、2015（平成27年）度から始まった鉄砲鍛冶屋敷・井上関右衛門家の堺市・関西大学共同研究調査に最初から関わっておられ、私たちもコロナ禍以前から、両者共同開催のシンポジウムなどで、先生のご講演を聞く機会がありました。また、協議会ニュース35号で取り上げたように、以前のご講演では堺市と本協議会が協働で取り組んでいる町なみ再生の活動を高く評価していただきました。そのご縁もあり、今回の本協議会主催のシンポジウムでのご講演をご快諾いただき、堺市・関西大学共催の講演会の直後というお忙しい中にもかかわらず、ご参加いただきました。また、これまでは、調査されている井上家の文献資料や鉄砲鍛冶屋敷そのものに関する興味深いご講演でしたが、今回は、その新たな調査研究の成果や従来の堺についての都市研究を踏まえた上で、環濠都市堺という都市や都市構造について考察された、大変示唆に富む興味深いご講演で、参加者の皆さんは大いに感銘受けておられました。

清水先生には2020年２月の町なみ再生連続講座以来、何度もご講演していただき、協議会ニュースでも度々皆さんにご報告しています。また、既に、シンポジウムⅠにおいても基調講演をしていただいています。清水先生のお話によって、「六間筋」という細街路の存在の意味や、町家内部の通り抜け空間を経て、街路から街路へと東西に通り抜ける「イケイケ」構造など、地元の私たちが当たり前と思っていたことが堺の町の特色であり、この町が、日本中で例のない都市構造をもった歴史都市であることに、私たちは初めて気づくことができました。そして、その町の個性を活かしていくために、一貫して文化的景観の視点から堺環濠都市北部地区のまちづくりについてご講演いただき、特に、昨年度の北部地区での実地調査を経て、その成果に基づき、より具体的にご提案をいただきました。

今回は、清水先生の現在の建物や都市構造からの視点のご研究と、藪田先生の文献資料を通しての視点からのご研究が、多角的な視点からお互い共鳴するような、本当に刺激的で、興味深いシンポジウムとなりました。